

# 俳句同好会

代表世話人 小野 野一

世話人 山科 爽風

世話人 進藤 久和

一般社団法人京都電業協会の俳句同好会も回を重ねて、第百九十四回を開催する事ができました。

現在会員九名で句座、吟行を開催しています。初心者を含め入会をお待ちしています。

第194 回例会 (R01/10/15)



第192 回例会 (H31/01/28)

## 第百九十二回 平成三十一年一月二十八日(月)

兼題 「福引」「咳」「鱈(タラ)」「雪」  
句座 「田」と本店」下京区四条通河原町西入

兼題句

暮れなずみ妻と向ひし雪見酒 紫峰

こな雪をまといし子らの声弾む 山本

終演後はじまる競演咳払い 桜井

雑踏にひびき渡るや福引の鐘 進藤

ランドセル咳き込むか孫背に重し 野一

寒風にタスキをつなぐおとめたち 佐伯

◇ ぼう鱈をつけし一夜に賀状書き 山本

色白き受験生の列全員マスク 爽風

咳払い突然静か始業式 宮本

待ちわびて駆け寄る君の雪はらい 山本

はらはらと舞う雪のなか待つ時間 桜井

福引の当り景品まねき猫 陵南

比良山がここにいるぞよ雪景色 佐伯

マスク取り咳一つして橋渡る 陵南

こえ 歓声あげて孫と押したる雪だるま 紫峰

コンサート楽章ごとの咳払い 信吾

## 第百九十三回 令和元年五月二十七日(月)

兼題 「葉桜」「夏めく」「新元号(天皇)」「十連休」  
句座 「京都ホテルオークラ入舟」中京区河原町御池

兼題句

◇ 夏めいて鴨川沿いに影法師 桜井

行く春と平成惜しむ十連休 信吾

◇ 杜若苔むす庭に彩色添えて 爽風

さくらんぼ取らずにおこう枝のかけ 佐伯

みなも 川水面新緑映す加茂堤 紫峰

夏めくや老舗模様かへ旧習 野一

夏めいてさえずり盛んつがい鳥 信吾

五月晴れ新天皇みかどよりも歳上に 爽風

ゴールデンウィーク縦断の旅USA行く 野一

よもぎ摘み草もちだんご春の菓子 宮本

はじまった令和の途端に五月病 桜井

夏めきぬ樹きぎ々の葉裏に蟻の道 爽風

新元号鴨川おどり幕があき 佐伯

夏めいて襟元あけて涼をとる 進藤

衣替え十連休ありがたき 宮本

松茸の香りを堪能店先で 桜井

銀杏の殻を剥ぎつつ交わす酒 桜井

台風の爪痕深く秋時雨 進藤

逃がさない松茸の鍋箸嬉し 野一

親子連れスマホにふけり秋景あきさびし 爽風

秋時雨肩を抱き寄せ傘の中 信吾

あざやかな畑茄子濡らす秋時雨 野一

ひとり旅宛てなき先に秋時雨 山本

うそ寒の山峡の宿手酌酒 信吾

香れども何処に潜む松茸 山本

うそ寒や宅配業者が運び込む 進藤

猛暑日に野球少年の声涼し 爽風

松茸やいずこにおりし土瓶鍋 紫峰

第百九十四回 令和元年 十月十五日(火)

兼題 「松茸」「うそ寒」「銀杏」「秋時雨」  
句座 「花咲 錦店」 中京区塚町通四条上ル

兼題句

銀杏の道を譲ろう散歩道 進藤

秋味覚はじける銀杏火の強さ 宮本

追記「俳句って難しい？」

芭蕉や一茶や子規で知られる俳句は、ご存じの通り自分の心の中に湧いてくる喜怒哀楽を表現する言葉遊びですが、ルールは至って簡単、私の知る限り二つしかありません。

五・七・五の十七字で表現する事、必ず一つの季語を読み込むこと、この二つで立派に自分流俳句の出来上がりです。五・七・五から外れる字余り、字足らずも、時に面白いリズム感となる時も有りますし、季語がない時も重なった時も、皆で笑い合い勉強です。

年に数回開催の句会では「兼題」と言って宿題が予め示されますので、何を詠んだらいいの？という心配ありません。如何ですか？是非あなたもご参加を!!

山科 爽風

俳句同好会参加者

三和電気工業(株) 小野 俊一 (野一)

(株)昭和電工社 進藤 久和

東邦電気産業(株) 佐伯 希彦

(株)日本電気 松井 章 (紫峰)

北陵電工(株) 山本 利廣

宮本電気工事(株) 宮本 みつへ

山科電気工事(株) 山科 隆雄 (爽風)

協会 前事務局長 巽 信吾

(投句) 事務局 元職員 桜井 舞子

(株)オリジナル電設 石崎 一郎 (陵南)

令和元年 九月十七日 御逝去されました。

ご冥福をお祈り申し上げます。俳句同好会一同